

平成23年度幸区区民会議

第5回全体会議 安心・思いやり部会経過報告

平成23年10月19日

1

1. これまでの検討状況 (1)前回の全体会議の検討結果

(1)前回の全体会議の検討結果

取り組み項目	項目の具体的な内容(前回までの決定事項)
(1)フォーラムの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「震災発生時に困ったこと」をテーマにしたフォーラムを開催 ・高齢者だけでなく、小中学生も含め、高齢者をサポートする側の参加を想定し、意見交換ができるような運営とする(ワークショップ形式なども検討) ・地域教育会議などとの連携を検討
(2)小冊子の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・震災発生時において、独居の高齢者などでも安全に避難できるような情報を整理した小冊子を作成 ・小冊子には、避難所の位置などの情報を載せるだけでなく、フォーラム等で挙げた「困ったこと」の回答になるような細かな情報を盛り込んでいく

2

1. これまでの検討状況 (2)有志による専門部会の開催

(2)有志による専門部会の開催

①開催の経緯

第6回(6月)の専門部会において、次回(8月)の専門部会までの間に検討を行う必要があるとの声が上がった。

この理由としては、新規テーマの取り組みとして、「フォーラムの開催」「小冊子の作成」などの取組候補が挙がる一方、スケジュールや内容などの面で「本当にできるのか」など実現可能性の懸念があるためである。

そのため、7月6日に有志による専門部会を開催した。

3

1. これまでの検討状況 (2)有志による専門部会の開催

(2)有志による専門部会の開催

②検討の概要

- ・これまでのやり方では、机上の議論が中心で時間がかかり、議論が横に拡がりがちで収束しない
- ・今後は「とにかくやってみる、動いてみる」ことが大事
- ・そのため、「プレシンポジウム」を早急に開催し、ニーズの把握と今後の方向性の策定に繋げる
- ・高齢者団体との“繋がり”のある方を通じ、人を集めて「まずやってみる」
- ・シンポジウムの展開や小冊子の扱いについては、動きながら検討していく

4

専門部会における検討

- 第7回専門部会 平成23年8月 5日開催
- 第8回専門部会 平成23年8月29日開催

5

2. 専門部会における検討 (1)「フレッシュポジウム」実施の検討

(1)「フレッシュポジウム」実施の検討

1)実施概要

フレッシュポジウムの実施にあたっては、議論の題材となるコンテンツが必要であることから、川崎市危機管理室が実施している「ぼうさい出前講座」を前半に実施することとした。専門部会では、以下1)～4)に示す項目について具体的な検討を行った。

- ①意見交換会の概要（テーマの設定など）
- ②市の「ぼうさい出前講座」との連携
- ③関連諸団体等への協力要請・調整
- ④会場等の手配など諸準備

6

2. 専門部会における検討 (1)「フレシンプोजウム」実施の検討

1) 実施概要

また、対象を高齢者として、二部構成で実施する。前半の第一部で「ぼうさい出前講座」を、後半の第二部で意見交換会を実施する予定である。

時間(案)	項目	担当
5分	・開会の挨拶・趣旨説明など	区民会議・企画課
40分	・ぼうさい出前講座の実施	市危機管理室
10分	・休憩	
40分	・意見交換会	参加者全員

7

2. 専門部会における検討 (1)「フレシンプोजウム」実施の検討

①意見交換会の概要(テーマの設定など)

・フレシンプोजウムでは、参加者の「困ったこと」「してほしいこと」などを聞くための意見交換会を開催。
 ・何について意見交換を行うかのテーマを設定する必要があるため、各委員が案を作成・提案、以下のようなテーマを設定した。

全体のテーマ	いざという時のために役に立つ地域における防災対策出前講座 ～お年寄りなどを見守り、ふれあいを通して地域の支え合い活動を活発化させるには～
意見交換会のテーマ	①震災当日に「困った」こと ②震災当日に「助かった、安心した」こと ③地域で協力し合えること(共助) ④行政に望むこと(公助)

8

2. 専門部会における検討 (1)「フレスシンポジウム」実施の検討

②市の「ぼうさい出前講座」との連携

- ・前半の第一部では川崎市危機管理室の「ぼうさい出前講座」を実施。
- ・ただし、通常の内容(約1時間)では内容が多いため、今回のフレスシンポジウムの趣旨に合う「地域コミュニティの支え合い(共助)」などを中心とした内容にある程度特化することを要請、担当課と調整を行う。

【ぼうさい出前講座の概要】

- ・市が行う防災対策の説明や、各個人・家庭でできる防災対策の解説等を行い、防災に対する理解と関心を深め、防災意識の高揚と地域の防災力向上を図ることを目的として実施。
- ・講師は、市の職員又は「防災インストラクター」が実施。
- ・講座の内容は、基本的に防災の一般的な知識についての説明。

9

2. 専門部会における検討 (1)「フレスシンポジウム」実施の検討

③関連諸団体等への協力要請・調整

- ・当日の参加者は、幸区老人クラブ連合会からの推薦委員を通じて周知・参加をお願いすることとした。
- ・参加者層は、老人クラブの会員の皆さんなど、いこいの家に日頃集まる方々とする一方、地域コミュニティの観点から町内会・自治会にも声掛けすることを想定している。
- ・また、人数としては50人程度を想定し、調整を行っている。

10

2. 専門部会における検討 (1)「フレスンポジウム」実施の検討

・周知や調整にあたり、区民会議でチラシを作成し、配布を行う予定である。

(イメージ案)
「いざ」という時のために役立つ
地域における防災対策出前講座

～お年寄りなどの見守り、ふれあいを通して地域の支え合い活動を活性化させるには～

幸区区民会議では、今年3月に発生した東日本大震災を受けて、地域コミュニティの役割を見直し、お年寄りなどの見守り、ふれあいを通じて地域の支え合い活動を活性化させていくことが重要であると考えています。

このため、川崎市危機管理課の専門職員を講師とする「ふれあい出前講座」と「震災時に困ったこと」などをテーマに、お集まりの皆さんとの「意見交換会」を行います。

ご多忙の折ではありますが、皆さまの御協力の上、ご参加を賜りますようお願いいたします。

○開催日時・場所

開催日 平成23年12月2日(金)

時間 10:00～11:30

会場 南河原いこいの家
(幸区南幸町1-11)

○当日の予定

・第1部 ふれあい出前講座
(講師:川崎市危機管理課)
(過去の震災からの教訓、「共助」の重要性など)

・第2部 お集まりの皆さんとの
「意見交換会」
(テーマ「震災時に困ったこと」「震災時に地域で協力できること(共助)」など)

○主催 幸区区民会議「安心・思いやり部会」
幸区役所企画課

○協力 幸区老人クラブ連合会

○問い合わせ先 川崎市幸区役所企画課
担当 加藤・菅野
電話 044-556-6612

11

2. 専門部会における検討 (1)「フレスンポジウム」実施の検討

④会場等の手配など諸準備

・フレスンポジウムの会場は、南河原のいこいの家(大広間)とする。
・実施は、12月2日(金)で調整を行っている。

【南河原いこいの家の概要】

・運営主体:川崎市幸区社会福祉協議会(市担当課:健康福祉局高齢者在宅サービス課)
・所在地:〒212-0016 川崎市幸区南幸町1-11



12

2. 専門部会における検討 (2)幸区民アンケートへの要望

(2)幸区民アンケートへの要望①

幸区が実施する「幸区民アンケート」の中で、安心・思いやり部会が関係する以下の2つの設問の要望を行った。

- 1) 高齢者支援について
- 2) 防災について

2. 専門部会における検討 (2)幸区民アンケートへの要望

(2)幸区民アンケートへの要望②

区民会議の要望を受け、アンケート項目が以下のよう

に確定した。

◎高齢者支援についておたずねします。

問 幸区でも高齢化が進んでいますが、あなたが現在（または将来高齢者となった時）に必要と思うことは何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 近所での助け合い | 6 気軽に相談できる人や場所 |
| 2 健康体操などの介護予防のための取組 | 7 その他() |
| 3 公共施設のバリアフリー化 | 8 特になし |
| 4 趣味などの高齢者同士の交流の場 | 9 わからない |
| 5 若い世代と交流 | |

◎防災についておたずねします。

問1 自宅が被害を受けたときに避難する「避難所」がどこにあるか知っていますか。（〇は1つ）

- 1 知っている
- 2 たいたい場所はわかる
- 3 知らない

＜表の1～11のうち、あてはまるものを選んでください。＞

問2 防災対策について、あなたが現在行っていることはありますか。（〇はいくつでも）

問3 あなたが現在行っていること以外で、今後、必要だと思うことはありますか。（〇はいくつでも）

項目	問2 現在行っていること	問3 今後、必要だと思うこと
1 水・食糧等の備蓄	1	1
2 トイレ・ベビー用品・日用品の備蓄	2	2
3 ラジオ、懐中電灯など非常持出品の準備	3	3
4 災害情報の入手	4	4
5 災害時の避難先や避難経路、家族の連絡方法の確認	5	5
6 地域の火災と防災エージェンシー	6	6
7 地域の防災訓練に参加するなど防災知識を高める	7	7
8 家の中の見直し(家具の転倒防止や避難しやすい配置など)	8	8
9 災害時の帰宅ルートの確認	9	9
10 その他	10	10
11 特になし	11	11

f10 その他と回答した方は、内容を具体的に記入ください。

問4 東日本大震災直後の停電時に、災害情報をどのような手段で入手しましたか。（〇はいくつでも）

- 1 ラジオ
- 2 パソコンによるインターネット
- 3 携帯電話によるインターネット
- 4 家族や友人などからの電話、メールで知った
- 5 メール配信防災関連のサイトに登録している場合
- 6 川島市からの屋外防災無線や広報車などから聞いた
- 7 近所の人などから直接聞いた
- 8 町内会・民生委員などからの連絡
- 9 その他()
- 10 情報を得られなかった
- 11 停電にならなかった